

世界旅打ち気分

●第30回・サンクルーとシャンティイ

須田鷹雄



写真を撮る競馬ファンにはたまらない環境のシャンティイ競馬場。



サンクルー競馬場のスタンド内部。右側の壁に歴代サンクルー大賞優勝馬の服色が掲げられている。



本馬場へ馬が出入りする際、間近に見られる通路は必見。

写真のカラー版は
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>
#グリーンファーム会報#2020年12月号
でご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

くという機会はあまりないかもしないが、普通のパリ旅行と開催スケジュールが重なっている場合はぜひ訪れていただきたい。

今回お届けするもうひとつ競馬場は、シャンティイ競馬場。フランスダービーの行われる競馬場だし、日本馬が遠征するときにはシャンティイの厩舎に滞在するところがほとんどなので、名前になじみはあることだろう。

シャンティイに行く場合は、パリ北駅から列車に30分くらい揺られることになる。この北駅が要注意で、観光客が立ち回りそうな場所の中でも北駅（東駅といえはばん）治安が良くない。

とにかく日本の常識で考えてはいけないというか、切符を買うときとか、発車番線を確認するときとか、一瞬とも気を抜かないようがない。周りにいる人をすべて泥棒だと思うくらいでちょうどいい。逆に、そのくらい警戒した目で周囲を見ると、無防備な観光客の危うさが分かることだろう。

列車を下りるときには全く別な注意が必要だ。車内アナウンスが低音量でぼそっと言うだけなので下りるシャンティイ駅を見落と

くという機会はあまりないかもしないが、普通のパリ旅行と開催スケジュールが重なっている場合はぜひ訪れていただきたい。

今回お届けするもうひとつ競馬場は、シャンティイ競馬場。フランスダービーの行われる競馬場だし、日本馬が遠征するときにはシャンティイの厩舎に滞在するところがほとんどなので、名前になじみはあることだろう。

シャンティイに行く場合は、パリ北駅から列車に30分くらい揺られることがある。この北駅が要注意で、観光客が立ち回りそうな場所の中でも北駅（東駅といえはばん）治安が良くない。

とにかく日本の常識で考えてはいけないというか、切符を買うときとか、発車番線を確認するときとか、一瞬とも気を抜かないようがない。周りにいる人をすべて泥棒だと思うくらいでちょうどいい。逆に、そのくらい警戒した目で周囲を見ると、無防備な観光客の危うさが分かることだろう。

列車を下りるときには全く別な注意が必要だ。車内アナウンスが低音量でぼそっと言うだけなので下りるシャンティイ駅を見落と

してしまった可能性がある。スマホの地図で自分の現在地を確認しよう。

駅を降りると明らかにJ'chだなどいうのが分かるので、そちらに進むとすぐに直線コースが見えてくる。そのコース沿いに進むと競馬場の入り口に至る。

ただ、せっかくシャンティイに行くなら競馬場をいつたん通り過ぎて外周沿いにぐるりと回り、大厩舎やシャンティイ城といった観光名所も楽しんでいただきたい。と言いつつ筆者ははつい競馬の時間帯にしか行かずシャンティイ城などはロケでちうと行つただけなのでJ'chまできて競馬場しか見ないのはさすがにもつたない。大厩舎には馬の博物館もあるようなので（シャンティイには何回も行ったのに筆者は行つたことがない）見かけるが、撮影にも非常に向いている競馬場だ。ヒラ開催なら混んでいないので撮影位置も選べる

駅を降りると明るかにJ'chだなどいうのが分かるので、そちらに進むとすぐに直線コースが見えてくる。そのコース沿いに進むと競馬場の入り口に至る。

ただ、せっかくシャンティイに行くなら競馬場をいつたん通り過ぎて外周沿いにぐるりと回り、大厩舎やシャンティイ城といった観光名所も楽しんでいただきたい。と言いつつ筆者ははつい競馬の時間帯にしか行かずシャンティイ城などはロケでちうと行つただけなのでJ'chまできて競馬場しか見ないのはさすがにもつたない。大厩舎には馬の博物館もあるようなので（シャンティイには何回も行ったのに筆者は行つたことがない）見かけるが、撮影にも非常に向いている競馬場だ。ヒラ開催なら混んでいないので撮影位置も選べる

駅を降りると明るかにJ'chだなどいうのが分かるので、そちらに進むとすぐに直線コースが見えてくる。そのコース沿いに進むと競馬場の入り口に至る。

ただ、せっかくシャンティイに行くなら競馬場をいつたん通り過ぎて外周沿いにぐるりと回り、大厩舎やシャンティイ城といった観光名所も楽しんでいただきたい。と言いつつ筆者ははつい競馬の時間帯にしか行かずシャンティイ城などはロケでちうと行つただけなのでJ'chまできて競馬場しか見ないのはさすがにもつたない。大厩舎には馬の博物館もあるようなので（シャンティイには何回も行ったのに筆者は行つたことがない）見かけるが、撮影にも非常に向いている競馬場だ。ヒラ開催なら混んでいないので撮影位置も選べる

駅を降りると明るかにJ'chだなどいうのが分かるので、そちらに進むとすぐに直線コースが見えてくる。そのコース沿いに進むと競馬場の入り口に至る。

ただ、せっかくシャンティイに行くなら競馬場をいつたん通り過ぎて外周沿いにぐるりと回り、大厩舎やシャンティイ城といった観光名所も楽しんでいただきたい。と言いつつ筆者ははつい競馬の時間帯にしか行かずシャンティイ城などはロケでちうと行つただけなのでJ'chまできて競馬場しか見ないのはさすがにもつたない。大厩舎には馬の博物館もあるようなので（シャンティイには何回も行ったのに筆者は行つたことがない）見かけるが、撮影にも非常に向いている競馬場だ。ヒラ開催なら混んでいないので撮影位置も選べる

駅を降りると明るかにJ'chだなどいうのが分かるので、そちらに進むとすぐに直線コースが見えてくる。そのコース沿いに進むと競馬場の入り口に至る。

ただ、せっかくシャンティイに行くなら競馬場をいつたん通り過ぎて外周沿いにぐるりと回り、大厩舎やシャンティイ城といった観光名所も楽しんでいただきたい。と言いつつ筆者ははつい競馬の時間帯にしか行かずシャンティイ城などはロケでちうと行つただけなのでJ'chまできて競馬場しか見ないのはさすがにもつたない。大厩舎には馬の博物館もあるようなので（シャンティイには何回も行ったのに筆者は行つたことがない）見かけるが、撮影にも非常に向いている競馬場だ。ヒラ開催なら混んでいないので撮影位置も選べる

駅を降りると明るかにJ'chだなどいうのが分かるので、そちらに進むとすぐに直線コースが見えてくる。そのコース沿いに進むと競馬場の入り口に至る。

ただ、せっかくシャンティイに行くなら競馬場をいつたん通り過ぎて外周沿いにぐるりと回り、大厩舎やシャンティイ城といった観光名所も楽しんでいただきたい。と言いつつ筆者ははつい競馬の時間帯にしか行かずシャンティイ城などはロケでちうと行つただけなのでJ'chまできて競馬場しか見ないのはさすがにもつたない。大厩舎には馬の博物館もあるようなので（シャンティイには何回も行ったのに筆者は行つたことがない）見かけるが、撮影にも非常に向いている競馬場だ。ヒラ開催なら混んでいないので撮影位置も選べる

と雨天では競馬場の見え方が全く違うので、行く場合にはひたすら晴れを望みたい。

日本ではよく競馬場で一眼レフを構え写真を撮っているファンを見かけるが、撮影にも非常に向いている競馬場だ。ヒラ開催なら混んでいないので撮影位置も選べるが、直線レースだとのように外ラチ側を来てくれるの迫力がある。

スタンドは改装を経て歴史を感じさせつもモダノなものになり、パドックも同様だ。自分で経験したことのない話なので恐縮だが、ヒラ開催ならスタンド内のレストランも入りやすいはずなので、試してみてもいいだろう。メモがわりに撮ったメニューの写真によると、前菜やサラダが15ユーロ程度、メインが20～25ユーロ程度のようなので、そこまで高いわけではない。食事をしつつの観戦というのも、日本だと大井のダイヤモンドターンへらいしかないので、海外に行つたときにかく眺めが素晴らしい。好天

えたさりに先にある。

行き方にはいろいろあるが、鉄道ですぐ近くというところには駅はない。J線という路線のヴァルド駅が最寄りかと思うが、そこから徒歩で20分程度はかかる。

ただこの道のりも悪くない。パリの市民生活に溶け込む雰囲気が味わえる。団地の中にパン屋さんがあつたりしてサンドイッチ類なども売っているので、買っていて競馬場で食べてもいいし、帰りに買って帰るのもよい。

歩くのがしんどいという場合は、バスの利用がよい。土日開催だとボルトマイヨー駅から無料シャトルバスも出るし、平日開催でも主要駅からいくつかの路線があり、競馬場近くに着く。詳しくはフランスギヤロのホームページに出ている。J線のサンクルー競馬場、着いてみると意外に施設が「じんまりして」と驚くだろう。入場者数も満場の入りとすることはあまりなく、サンクルー大賞の日であっても指定席のよつなものをどうやっても座るところがなくて困ることは多い。馬券や食べ物を買うのに指定席のよつなものをどうやっても座るところがなくて困ることは多い。馬券や食べ物を買うのに指定席のよつなものをどうやっても座るところがなくて困ることは多い。馬券や食べ物を買うのに

えただろう。

もうひとつはスタンド内部にある、歴代サンクルー大賞優勝馬の勝負服展示。当然、エルゴンンドルバー・渡邊隆オーナーの服色も掲げられている（レース当時の旧服装）。これは日本人として見落とすわけにはいかないだろう。

もうひとつはスタンド内部にある、歴代サンクルー大賞優勝馬の勝負服展示。当然、エルゴンンドルバー・渡邊隆オーナーの服色も掲げられている（レース当時の旧服装）。これは日本人として見落とすわけにはいかないだろう。

このコースが外ラチ沿いに設けられてるので、ファンは人馬の姿をものすごく近くで見る」とができる。入場時は日本のように常歩で場するとき、逆にレースが終わって引き上げてくるときに通る通りだ。

このサンクルー競馬場に行つたら、注目してもらいたいところが2つある。ひとつは、馬が本馬場入場するとき、逆にレースが終わって引き上げてくるときに通る通りだ。

延々並ぶ」ということもない。観戦環境としては非常に快適だ。